

「障害者も楽しく参加できるラジオ体操のあり方」
を調査研究しています。

平成 30 年度の協会におけるラジオ体操調査研究は、「いつでも、どこでも、だれでも」できる身近な健康法の “だれでも” に着目し、「障害者も楽しく参加できるラジオ体操のあり方」をテーマとしました。

株式会社かんぽ生命保険、NPO 法人全国ラジオ体操連盟などのラジオ体操普及推進機関や学識経験者をメンバーとする委員会を立ち上げ、平成 30 年度は 4 回にわたり委員会を開催。障害の有無にかかわらず、だれでもより一層ラジオ体操に慣れ親しんでいただくための方策について協議を進めています。



調査研究委員会委員長
青山 敏彦氏

【平成 30 年度に実施した主な調査】

1 実態把握アンケート

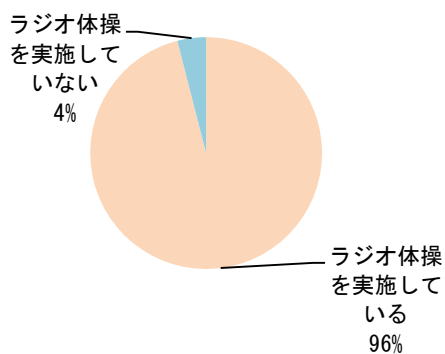
都立特別支援学校知的障害部門の高等部 27 校の教育現場で、ラジオ体操の実施状況についてアンケート調査

27 校中 25 校から回答(回答率 93%)

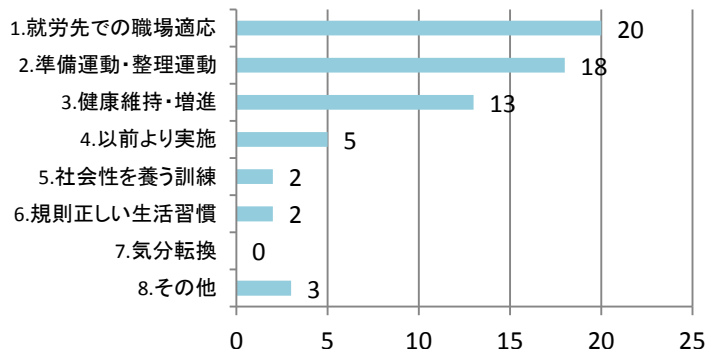
回答中 24 校(96%)の特別支援学校でラジオ体操が実施されており、朝の体操の時間や体育授業の準備体操、健康増進、将来の就労支援等の目的で、ラジオ体操が実施されていました。

アンケート集計結果(一部)

【ラジオ体操実施率】



【ラジオ体操実施目的】(複数回答)



2 ヒアリング等

① 都立特別支援学校へ個別ヒアリング

現場の先生方が抱えておられる課題等について、委員会の委員も同行し、身体障害、知的障害、視覚障害、聴覚障害の小学部児童が在籍する6校の校長先生、担当教諭にヒアリングを行いました。

② 心身障害者通所施設見学

就労継続支援 B 型事業所(自立した日常生活を営むことができるよう就労機会を提供する)、生活介護事業所施設(常に介護を必要とする方に日中介護を行い、創作・生産活動の機会を提供する)を訪問し、施設長からラジオ体操の実施状況について聞きました。

③ 全国小学校ラジオ体操コンクール受賞校への訪問

株式会社かんぽ生命保険主催の第5回全国小学校ラジオ体操コンクールでかんぽ生命特別賞を受賞された支援学校2校へ訪問し、校長先生、担当教諭へのヒアリングを行ったほか、同校の児童等にNPO法人全国ラジオ体操連盟指導委員によるラジオ体操実技講習会を行いました。

④ 障害者教育・保健体育等を専門とする大学、障害者スポーツ関連団体、自治体等へのヒアリング

3 今後の方向性

既存のラジオ体操の良さを変えることなく、実際にラジオ体操を実施、指導している現場の先生方の意見を聞きながら、ラジオ体操を実施するときに出てくる困難な部分をどのように工夫することで対応できるのか等を示したユニバーサルデザインの思想に基づいたコンテンツを制作して行きます。

2019年も引き続き、当調査研究委員会の中で、それぞれの困り感にできるだけ寄り添い、だれでも楽しく参加できるラジオ体操のあり方の具体的な方法について検討を続け、ラジオ体操の一層の普及につなげていくこととします。

本調査研究についての問合せ先
一般財団法人簡易保険加入者協会
ラジオ体操担当 03-6268-8835

